

1. 日本藻類学会第23回大会

1998年3月27～30日、山形大学理学部先端科学実験棟・教養教育2号館（山形市）において第23回日本藻類学会大会を開催した。大会会長は高橋永治氏（日本黄金藻研究所長）で、一般講演は82題におよんだ。大会参加者は191名であった。また、講演数が多かったことから2会場を用いて並行して発表が行われた。

大会1日目に編集委員会と評議員会が開かれたあと、大会2日目の午前に公開講演会「山形県が生んだ二人の偉大な藻類学者」（オーガナイザー原慶明氏、山形大学）が開催され千原光雄氏と安部守氏による講演が行われた。その後、午後から一般講演が行われた。夕方にはいかにも山形らしい歓迎芋煮会が学生会館の食堂で行われ大いににぎわった。芋煮会は準備委員会関係者の真心のこもった手作りのもてなしであった。3日目の午後には特別シンポジウム「花の遺伝子からみた藻類の世界、藻類からみた生物の世界」（オーガナイザー原慶明氏）が開催され、長谷部光泰氏と中山剛氏による講演が行われた。シンポジウムに引き続き、総会、懇親会が開催され再び楽しいひとときを過ごすことが出来た。懇親会参加者は150名であった。また大会期間中「山形の海藻、身近な海藻」と題した特別展示が行われた。大会の運営にあたっては、高橋大会会長をはじめ、準備委員会の原慶明氏、菱沼佑氏、山形大学理学部および理学部長鬼武一夫氏ほか多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

第23回大会参加者名簿

モ・ワ・ダイ・ノウ, Gontcharov A.A, Aparat Mahakhant, R.Jordan, 金漢純, 李眞愛, 巖興洪, 青木優和, 朝比奈雅志, 鯉坂哲朗, 阿部英治, 阿部信一郎, 阿部孝志, 阿部勇人, 安部守, 新井暢子, 有賀祐勝, 飯田勇次, 飯間雅文, 井岡 勲, 井口雅陽, 池原宏二, 石川依久子, 石本佳代, 出井雅彦, 伊藤裕之, 井上勲, 井口律子, 今井一郎, 今井正江, 今泉真知子, 岩木博之, 岩滝光儀, 岩本浩二, 植木紀子, 植田邦彦, 上野奏子, 内村真之, 上井進也, 江端弘樹, 大澤正, 大隅千恵子, 太田理香, 大野正夫, 岡田光正, 奥田一雄, 長田敬五, 鬼武一夫, 葛西ハルエ, 笠井文絵, 加崎英男, 柏倉真, 梶川牧子, 片山享子, 片山舒康, 金井塚恭裕, 金森武, 金田美奈子, 加納久尚, 神谷充伸, 川井浩史, 川嶋昭二, 河地正伸, 神林友広, 木下桜子, 金高卓二, 日下

啓作, 工藤創, 倉島彰, 栗山あすか, 桑野和可, 勾坂宙, 高原隆明, 小島夏彦, 小林正裕, 小林敦, 小松隆, 近藤貴靖, 斎藤育, 齋藤宗勝, 榊原礼子, 坂口美亜子, 坂山英俊, 嵯峨直恒, 佐々木謙介, 佐々木秀明, 佐藤征弥, 島田智, 島袋寛盛, 島村京子, 菅原顕人, 菅原洋子, 洲崎敏伸, 鈴木明子, 鈴木秀和, 関口弘志, 関田諭子, 芹澤如比古, 高島季子, 高野克, 高橋永治, 田口保彦, 竹下俊治, 竹中裕行, 田中貞子, 田中次郎, 田中博, 田辺敦, 谷本舞子, 千原光雄, 辻村茂男, 津田藤典, 土崎尚史, 土屋英夫, 寺田竜太, 寺脇利信, 川嶋之雄, 中原美保, 中山重之, 中山剛, 長尾信, 長里千香子, 長島秀行, 南雲保, 成田貴子, 根本雄一, 野崎久義, 野田三千代, 野畑 英, 長谷川和清, 長谷部光泰, 島中芳郎, 幡野恭子, 濱田仁, 林田文郎, 原朋之, 原 慶明, 半田信司, 馬場将輔, 樋口澄男, 菱沼佑, 樋田陽治, 平岩呂子, 平岡雅規, 福島博, 福田廣一, 藤田雄二, 藤田大介, 藤吉栄次, 保科 亮, 堀志保美, 堀輝三, 堀口健雄, 堀米栄美子, 本多正樹, 本間仁一, 松下令奈, 松永茂, 松本珠美, 松山和世, 真山茂樹, 三浦昭雄, 峯一朗, 宮坂郁, 宮下英明, 宮地和幸, 宮村新一, 村岡大祐, 村上明男, 本村泰三, 森史, 森田晃央, 守屋真由美, 矢部和夫, 山岸隆博, 山岸幸正, 山下尚之, 山本鎔子, 湯浅 健, 横浜康継, 横山亜紀子, 吉川浩二, 吉川伸哉, 吉崎 誠, 吉田吾郎, 四ツ倉典滋, 若林徹哉, 渡部雅博, 渡辺誠, 渡邊信, 渡辺洋

2. 編集委員会・評議員会

3月27日に山形大学教養教育1号館2階第1会議室において英文誌編集委員会および和文誌編集委員会を合同で開催した。和文誌に関しては堀口編集委員長より第46巻, 47巻「藻類」の編集状況, 2000年度からの次期和文誌編集委員長などに関する報告があった。編集経費, 特集・連載記事, 和文誌ホームページなどに関して議論が交わされた。また, 解説, 総説の記事が最近少ないので編集委員に斡旋してもらいたいとの委員長からの要請があった。英文誌に関しては川井編集長から第46,47巻「Phycological Research」の編集状況, 年間投稿状況, 2000年度からの次期英文誌編集長などに関する報告があった。また, Current Contentsへの収録に関する申し入れを行ったが, 現時点では収録できない旨の回答があったとの報告があった。47巻1号から印刷所の変更があったが, 写真の質などについて

て検討した結果、来年度以降もBlackwell社との出版契約を続けることとなった。

引き続き評議員会を同会議室で開催した。1998年度総会に提出する報告事項・審議事項についての審議を行った。内容に関しては総会の項を参照されたい。編集委員会・評議員会の開催にあたっては原慶明氏、菱沼佑氏ならびに山形大学の学生諸君に大変お世話になった。記して御礼申し上げる。

3. 1998年度総会

1998年3月29日の特別シンポジウム終了後、同会場にて総会を開催した。総会に先立ち昨年、逝去された秋山優氏と片平幸枝氏にたいして黙祷が捧げられた。堀輝三会長の挨拶の後、齋藤宗勝氏（盛岡大学）を議長に選出して議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1) 会員状況（1998年12月31日現在）：名誉会員3名、普通会員592名、学生会員77名、団体会員56名、賛助会員12名、外国会員113名、国内購読37件。(2) 1998年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」の交付額は1,250,000円であった。(3) 第22回大会を3月25日～27日筑波大学下田臨海実験センター及び下田東急ホテルで開催した。(4) 評議員会を3月25日に総会を3月26日に開催した。(5) 10月30日に秋季シンポジウム「海産植物資源の活用と国際的展望」を学士会館で開催した。(6) 日本藻類学会論文賞を川口栄男氏とDieter G.Müller氏へ授与した。(7) 7月に日本藻類学会会員名簿を発行した。(8) 学名登録について国際植物分類学連合と雑誌認定協定を締結した（詳細は「藻類」46巻3号227頁を参照のこと）。(9) 1999年度および2000年度の会長・評議員の選挙が行われ、新役員が決定した（詳細は「藻類」46巻3号230頁を参照のこと）。(10) 自然史学会連合定期総会に参加した（詳細は「藻類」47巻1号49頁を参照のこと）。(11) 植物分類学関連学会連絡会会議に参加した。(12) 2005年国際藻類学会を日本へ誘致する運動を行ってきたが、日本開催には到らなかったとの報告があった。

●会計関係

(1) 1998年3月19日現在の会費納入率は、普通会員94%、学生会員88%、団体会員66%、賛助会員83%、外国会員93%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項参照のこと。

●編集関係

1998年に発行した和文誌「藻類」第46巻1～3号は、総頁数232頁、掲載論文数5、研究技術紹介2、記事19、その他雑録であった。(2) 堀口編集委員長から「藻類」の会員のためのページの積極的な利用と企画募集の要請があった。(3) 1998年度に発行した英文誌「Phycological Research」第46巻1～4号は、総頁数288頁で掲載論文数33編、supplementは、総頁数93頁で掲載論文数14編であった。(4) 英文誌「Phycological Research」についてBlackwell社と1999年1月から1年間の出版契約を結んだとの報告があった。

【審議事項】

●庶務関係

(1) 以下の1999年度事業計画が承認された：1) 第23回大会・総会・評議員会（山形大学）の開催、2) 和文誌「藻類」47巻1～3号の発行、3) 英文誌「Phycological Research」47巻1～4号の発行、4) 秋季シンポジウムの開催 世話人：大野正夫氏（高知大）、5) 日本藻類学会論文賞の授与、6) マリンバイオテクノロジー学会大会（5月27、28日）への協賛。(2) 1999年度の日本藻類学会論文賞については例年通り行うことが承認された。また、受賞者決定までの詳細は事務局に一任された。(3) 1999年度から英文誌「Phycological Research」の印刷所の変更があったが、印刷の質などを検討した結果、2000年度以降の出版契約は、これまで通り、Blackwell社と契約する方向で話をすすめて行くことが了承された。(4) 編集委員会内規に基づき、石川前会長、堀現会長、堀口編集委員長、川井編集長の協議により次期和文誌編集委員長に田中次郎氏（東京水産大）、英文誌編集長に本村泰三氏（北大・海藻研）が推挙され、承認された。任期は2000年1月1日から2002年12月31日である。(5) 2000年度から「和文誌に副編集委員長を設けることができる」との提案がなされ、承認された。(6) 来年度の藻類学会大会は長崎大学で、藤田雄二氏（長崎大）にお世話をお願いすることになった。(7) 2001年藻類学会大会は東京周辺で開催することが承認された。(8) 藻類学会ロゴマークをつくることの提案がなされたが、意匠登録、予算などの問題があるのではないかと意見が出され、会長・事務局でさらに検討していくことになった。(9) 藻類学会創立50周年記念行事を行うことについての提案があり、記念行事の内容については検討委員会をつくって来年の総会までに検討し、その途中経過を和文誌「藻類」に報告することが承認された。(10) 植物分類

表 1-1 1998 年度一般会計決算 (1998.1.1 ~ 1998.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,764,522	和文誌印刷・発送費	1,535,865
普通会員	4,074,811	印刷代	1,161,400
学生会員	195,000	別刷代	172,000
外国会員	506,711	発送費	202,465
団体会員	648,000	英文誌印刷・発送費	5,688,407
賛助会員	340,000	編集費	203,820
販売	686,850	編集補助費	100,099
定期購読	263,250	通信補助費	60,000
バックナンバー	423,600	事務用品費	43,721
別刷代	197,360	庶務費	616,835
超過頁負担金	0	事務用品費	117,510
広告代	88,000	会議費	50,000
受取利息	2,921	通信・印刷費	403,430
文部省刊行助成金	1,250,000	諸雑費	45,895
英文誌還付金	77,150	幹事旅費補助	40,000
雑収入	100	事務補助	194,960
寄付金	330,000	第22回大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助費	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小計	8,396,903	小計	8,469,887
前年度繰越金	7,243,892	次年度繰越金	7,170,908
合計	15,640,795	合計	15,640,795

表 1-2 1998 年度一般会計貸借対照表

貸方 (円)		借方 (円)	
普通預金 (第一勧銀・品川)	5,218,467	前受会費	3,187,099
普通預金 (山陰合同銀行・松江)	933,912	次期繰越金	7,170,908
普通預金 (島根銀行・松江)	265,040	前期繰越金	7,243,892
郵便振替口座 (品川)	136,335	当期繰越金	-72,984
郵便振替口座 (松江)	3,713,640		
現金 (品川)	-37,450		
現金 (札幌)	713		
現金 (松江)	127,350		
合計	10,358,007	合計	10,358,007

表 2-1 1998 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (1998.1.1 ~ 1998.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	11,251		0
小計	11,251	小計	0
前年度繰越金	2,580,999	予備費	2,592,250
合計	2,592,250	合計	2,592,250

表 2-2 1998 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計貸借対照表

貸方 (円)		借方 (円)	
普通預金	1,900,000	次期繰越金	2,592,250
普通預金	684,838	前期繰越金	2,580,999
現金	7,412	当期繰越金	11,251
合計	2,592,250	合計	2,592,250

日本藻類学会 1998 年度決算報告書に対し記名捺印する

1999 年 3 月 18 日

会 長 石川依久子 印

会計幹事 田中次郎 印

決算書が適正であると認める

1999 年 3 月 18 日

会計監査 岡崎恵視 印

会計幹事 片山舒康 印

表 3 1999 年度一般会計予算案 (1999.1.1 ~ 1999.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,664,600	和文誌印刷・発送費	1,970,000
普通会員	4,032,000	印刷代	1,500,000
学生会員	301,500	別刷代	250,000
外国会員	548,100	発送費	220,000
団体会員	513,000	英文誌印刷・発送費	6,000,000
賛助会員	270,000	編集費	450,000
販売	340,000	編集補助費	150,000
定期購読	270,000	通信補助費	200,000
バックナンバー	70,000	事務用品費	100,000
別刷代	250,000	庶務費	360,000
超過頁負担金	0	事務用品費	60,000
広告代	120,000	会議費	50,000
受取利息	3,000	通信・印刷費	150,000
文部省刊行助成金	1,250,000	諸雑費	100,000
英文誌還付金	70,000	幹事旅費補助	20,000
雑収入	0	事務補助	100,000
寄付金	250,000	第22回大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助費	50,000
小計	7,947,600	小計	9,070,000
前年度繰越金	7,170,908	次年度繰越金	6,048,508
合計	15,118,508	合計	15,118,508

表4 1999年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算案 (1999.1.1 ~ 1999.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	10,000	論文賞状代	210
小計	10,000	小計	210
前年度繰越金	2,592,250	次年度繰越金	2,602,040
合計	2,602,250	合計	2,602,250

学関連学会主催の合同シンポジウムを「東北地方のフローラ」か「分子情報を用いた生物地理」というテーマで今秋の植物学会で開催する方向で話が進んでいるとの報告があり、藻類学会に演者の依頼がきた場合には、人選について会長・事務局に一任された(植物分類学関連学会連絡会議の項を参照のこと)。(11) 30巻以降の「藻類」[Phycological Research]のインデックスを作ることが承認された。(12) 第18期学術研究団体登録と会員候補者の推挙については会長・事務局に一任された。

●会計関係

(1) 1998年度一般会計決算報告および同監査報告は表1の通り承認された。(2) 1998年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2の通り承認された。(3) 1999年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表3および表4の通り承認された。(4) 1999-2000年度の会計監事は、総会に先立ち開催された評議員会で選ばれた渡辺眞之氏(国立科学博物館)、北山太樹氏(国立科学博物館)が承認された。

【その他】

理科教育において採用される藻類の割合が減少しているとの問題提起が片山舒康氏(東京学芸大学)からあり、論議が行われた。

【日本藻類学会論文賞授与】

第二回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれ、以下の論文の著者に賞状が授与された。

- ・ Selective disappearance of maternal centrioles after fertilization in the anisogamous brown alga *Cutleria cylindrica* (Cutleriales, Phaeophyceae): Paternal inheritance of centrioles is universal in the brown algae. (受賞者: 長里千香子氏, 本村泰三氏, 市村輝宜氏)

4. 植物分類学関連学会連絡会議

表記の第9回会合が1999年3月16日に中央大学2号

館2513教室で開催された。藻類学会からは宮村新一代表幹事が出席した。代表が出席した他の学会は植物地理・分類学会, 植物分類地理学会, 地衣類研究会, 日本珪藻学会, 日本シダ学会, 日本植物分類学会, 日本蘚苔類学会であった。(1) 秋の植物学会大会での連絡会企画のシンポジウムについて予定通り行うことが確認された。当日, 内容について決まらなかったが, その後, 「分子生物地理 最近の発展と動向」というテーマで行うことになり, 藻類学会からの演者として神谷充伸氏(神戸大)をお願いすることになった。なお, 演者の選考については藻類学会持ち回り評議員会の議を経て決定された。(2) 共同名簿発行の総括と今後の取り組みについて話し合われ, 共同名簿は多くの学会で有効であるので, 2002年1月を目標に次回も発行することになった。(3) 新学名登録方式試行について, 各学会の取り組みについて情報交換がなされ, 7月のIBCの会議の結果をみてから対応することになった。

5. 藻類学会第25回大会について

本年3月の総会時点では, 藻類学会第25回大会の開催地については未決定であったが, その後, 持ち回り評議員会で審議した結果, 日本歯科大学の南雲保氏にお世話頂くことに決定した。会期は2000年3月27,28,29日, 場所は日本歯科大学(東京都千代田区富士見), 大会会長は小宮定志氏(日本歯科大)の予定である。

6. 評議員の交代

本会評議員横浜康継氏(中部地区)が東北地区へ異動したため, 評議員を辞任された。本会会則付則第4条により中部地区の評議員には次点の渡邊信氏に就任していただいた。任期は残任期間である2000年12月31日までである。

7. 藻類学会創立50周年記念行事検討委員会について

創立50周年記念行事検討委員会の委員長を渡邊信氏(富山大)に依頼した。その結果, 渡辺委員長が

ら検討委員会のメンバーが以下の7名に決まったとの報告を受けた。

藻類学会創立50周年記念行事検討委員会委員：渡邊 信氏（委員長）、堀口健雄氏（北大）、本村泰三氏（北大）、真山茂樹氏（東京学芸大）、奥田一雄氏（高知大）、鯉坂哲朗氏（京大）、田中次郎氏（東京水産大）

8. 秋季シンポジウムについて

本年3月の総会で秋季シンポジウムを大野正夫氏（高知大）にお世話いただくことが承認されたが、その後「藻類の安全性と健康への効用」というテーマで、11月29日（月曜日）午後1時30分より学士会館（東京・神田一つ橋）で開催することに決まった。

9. 「Phycological Research」投稿論文送付先の変更について

総会でも川井英文誌編集長からアナウンスがあった通り、「Phycological Research」の投稿論文送付先が7月1日から新編集部に変更されます。新編集部の連絡先は以下の通りです。

編集長：本村泰三

〒051-0003 北海道室蘭市母恋南町1-13

北海道大学理学部附属海藻研究施設

TEL:0143-22-2846, FAX:0143-22-4135

e-mail:motomura@bio.sci.hokudai.ac.jp

勤務先変更

会 員 異 動

E-mail, FAX 番号変更

会 員 異 動

賛助会員

北海道栽培漁業振興公社 (060 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道第二水産ビル4階)

阿寒観光汽船 株式会社 (085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔)

株式会社 シロク (260-0033 千葉市春日1-12-9-103)

全国海苔貝類漁業協同組合連合会 (108-0074 東京都港区高輪2-16-5)

有限会社 浜野顕微鏡 (113-0033 東京都文京区本郷5-25-18)

株式会社 ヤクルト本社研究所 (186-8650 東京都国立市谷保1769)

神協産業 株式会社 (742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野962-1)

理研食品 株式会社 (985-8540 宮城県多賀城市宮内2丁目5番60号)

(株) ハクジュ・ライフサイエンス (173-0014 板橋区大山東町32-17)

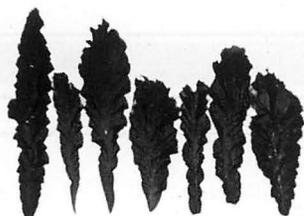
三洋テクノマリン株式会社 (103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目3-17)

マイクロアルジェコーポレーション (MAC) (104-0061 東京都中央区銀座2-6-5)

(有) 祐千堂葛西 (038-3662 青森県北津軽郡板柳町大字板柳字土井38-10)

株式会社 ナボカルコスメティックス (151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-29-7)

日本製薬株式会社 ライフテック部 (598-8558 大阪府泉佐野市住吉町26番)

表紙の写真

本号では解説記事として、絶滅危惧種であるアサクサノリの分布に関する現時点での知見を吉田忠生先生に紹介していただいた。写真はアサクサノリの標本を撮影したもの。吉田先生が撮影された写真で、スライドシリーズ「藻類の多様性」にも収録されている。(T.H.)